

公益財団法人

知床自然大学院大学設立財団

Public Interest Incorporated Foundation for Shiretoko Institute of Wildlife Management

News Letter

2024-12

設立財団ニュースレター

No.32



特集 知床ネイチャーキャンパス2024を開催しました！

自然にかかわるWORK&PEOPLE

ワイルドライフマネジメント・知床ミーティング

知床トークの報告 オンライン講座のお知らせ など

寄稿 ヒグマ管理のケース教材を活用しています！

自然にかかわる WORK&PEOPLE

8/25
オンライン講義
9/23-9/25
現地実習・演習



8月25日開催のオンライン講義には、社会人の方も含め、40人が参加。9月23日〜25日の現地知床実習・演習にはそのうち18人が参加し、実際の現場で働く人たちの生の声を聞いて仕事内容などを学びました。アンケート結果も含めて、概要を紹介します。

オンライン講義 8/25

- 講義1 リスク管理の対象としての野生動物：現状と講じるべき対策、そして今こそ本当に求められる人材像
鈴木正嗣・岐阜大学応用生物科学部教授
- 講義2 世界自然遺産知床の管理における研究者の役割（科学委員会について）
梶光一・東京農工大学名誉教授、当財団代表理事
- 講義3 知床財団が担う幅広い現地業務とは
秋葉圭太・公益財団法人知床財団 事業部参事
- 講義4 ヒグマ対策の現場から（野生動物管理の実務と実際）
松林良太・公益財団法人知床財団 事業部参事
- 講義5 生物多様性保全にかかわる環境省の仕事
遠矢駿一郎・環境省自然環境局 総務課動物愛護管理室 室長補佐

総合質疑・ディスカッション



2024年の知床ネイチャーキャンパスは、学生（大学院生・大学生・専門学校生・高校生）を対象に、オンライン講義と現地実習・演習を通じて、自然にかかわる仕事の実践について理解を深める内容で開催しました！

オンライン講義では、野生動物管理教育や知床世界自然遺産地域科学委員会委員を担う研究者、知床財団の現場担当者、環境省職員と立場の違う5人の講師の方から、それぞれが経験してきた仕事の実践をお話いただきました。総合質疑の時間には、学生の皆さんから率直な質問が多数寄せられ、時間いっぱいまで講師の皆さんにお答えいただきました。

現地実習・演習は天気に恵まれ、さわやかな秋の知床で、さまざまな自然にかかわる仕事の現場を歩き、担当者からさまざまなお話を聞くことができました。交流会では進路や職業選択についての悩みを話し合い、情報交換する受講生の姿も。全国から集った受講生同士が交流を深め、知床での経験を今後に生かしていくてほしいと願っています。

現地実習・演習 9/23-9/25

実習フィールド：知床世界遺産地域と周辺地域
演習会場・宿舎：ホテル知床

9/23

実習1 生物多様性保全とエゾシカ管理の現場
(岩尾別台地)

実習2 幅広い現地業務の拠点とバックヤード
(知床自然センターなど)

秋葉圭太・公益財団法人知床財団 事業部参事
松林良太・公益財団法人知床財団 事業部参事

夜の動物ウォッチングツアー参加

9/24

実習3 自然復元対策業務の現場
(岩尾別川)

中西将尚・公益財団法人知床財団 事業部参事

実習4 市街地におけるヒグマ対策の現場
(ウトロ市街地)

松林良太・公益財団法人知床財団 事業部参事

実習5 環境省が現地で担う仕事について (世界遺産センター)

加倉井理佐・環境省ウトロ自然保護官事務所 国立公園企画官

実習6 協働によるヒグマ対策について (世界遺産センター)

村上晴花・知床ゴミ拾いプロジェクト代表

交流会 (ホテル知床)

9/25

演習 自然にかかわる仕事に
大切な「〇〇力」とは？
(ホテル知床)

当財団事務局

実習1

岩尾別台地のエゾシカ大型囲い柵へ向かう途中、ヒグマの糞を発見。松林良太講師が抽出キットを使ってDNAを採取しました。



実習2

知床五湖フィールドハウスや知床自然センター、鳥獣保護管理センターなど、自然にかかわる仕事の拠点やバックヤードを案内していただき、実際に働く人たちの姿を見学しました。



実習3

自然復元対策が行われている岩尾別川で、サクラマス遡上のための手作り魚道を見学。試行錯誤の末、ボランティアなどの手で2日間で完成させたことなどを説明いただきました。



実習4

ウトロ市街地に張り巡らされている電気柵や、ヒグマ対策用のゴミステーションなどを見学し、市街地で行われている様々なヒグマ対策を学びました。



↑実習5

環境省レンジャーから、実際の仕事内容、地域との関わりなどをお聞きました。



←実習6

ゴミ拾いや草刈りなど、地域と協働で行うヒグマ対策について学びました。



ワークショップ演習

講義や実習で見たこと、聞いたこと、学んだことを整理し、自然にかかわる仕事に大切な「〇〇力」についてチームでまとめ、発表しました。

知床ネイチャーキャンパス・自然にかかわるWORK&PEOPLE

受講生の声（アンケート結果より）

<オンライン講義>

自然環境に関わる仕事をしている様々な方の話を聞くことで、新たな気づきが沢山あり、自分の将来に繋がるととてもいい機会になりました。

<現地実習・演習>

どのプログラムも貴重な経験で楽しかったです。知床の美しい自然は多くの人の思いと技術によって支えられていることがよく分かりました。実践的な学びの機会は大学に通うだけではあまりないので参加できて嬉しく思います。レンジャーの方にお話を聞いたのは初めてでした。質問する機会もくださったのが嬉しかったです。

<オンライン講義>

先生方のお話はどれも面白く、野生動物管理を行う仕事についての現実的な側面を知ることができ、もっと勉強を頑張ろうと思いました。

<現地実習・演習>

動物に対する対策だけでなく、人と共存していくための方法を模索していたり、うまい仕組みを作り出していて、自分にはない考え方や視点ばかりだった。

<現地実習・演習>

他の参加者が熱意を持ってプログラムに積極的に参加していたこと。同じような志を持つ受講者を見て、自分も頑張ろうというモチベーションになった。

<全体>

オンライン講義に始まり、レポートで自身の学びたい内容や自然に関わる仕事に興味を抱いた理由を言語化することができ、現地実習では知床財団や環境省など多様な働き方があることを学び、今後就職先を決めていく上で非常に参考になった。

受講生について

オンライン講義

参加者数	40人	性別
高校生	6人	男性 19人
専門学校生	1人	女性 19人
大学生	19人	その他 1人
大学院生	4人	回答しない 1人
社会人	10人	
		お住まい
		北海道内 19人
		北海道外 21人

現地実習・演習

参加者数	18人	性別
高校生	3人	男性 8人
大学生	14人	女性 9人
大学院生	1人	回答しない 1人
		お住まい
		北海道内 9人
		北海道外 9人

参加した学生の所属

北海道大、酪農学園大、北海学園大、筑波大、早稲田大、東京農業大、東京農工大、東京都市大、麻布大、日本獣医生命科学大、岐阜大、関西学院大、岡山理科大、長崎大、札幌南高、釧路江南高、旭川西高、松前高、S高など

ワイルドライフマネジメント

知床ミーティング

10/19-10/21
現地実習



10月19日～21日、知床でのエゾシカやヒグマ管理の実際を学ぶ「知床ミーティング」を開催しました。これは今年1～7月に開催したオンライン特別連続講座「ワイルドライフマネジメント」の総仕上げという位置付けで、講座受講生、社会人（現職者）を中心に11名が参加しました。講師はオンライン講座に引き続き梶光一・東京農工大学名誉教授のほか、現地の管理業務を担う知床財団の方々に務めていただき、リアルな現場の課題や工夫をお聞きしました。



1日目は雨でしたが、岩尾別台地の大型囲い柵を見学し、森林復元の現場も含めてさまざまなエゾシカ対策を学びました。2日目はカメラマンや観光客のヒグマへの接近が問題となっている岩尾別川を視察。普及啓発やウトロ市街地でのヒグマ対策について、講師から詳しく説明を受けました。プログラムの最後には、受講生全員が印象に残ったことを発表して振り返りを行い、交流会も含め、講師や受講生同士の情報交換も活発に行われました。

現地実習 10/19-10/21

10/19

実習1 生物多様性保全とエゾシカ管理の現場
(岩尾別台地)

金川晃大・公益財団法人知床財団 事業部保護管理事業係長

実習2 森林復元とエゾシカ管理
(しれとこ100平方メートル運動地
森づくりの道・開拓小屋コース)

中西将尚・公益財団法人知床財団 事業部参事

その他、振り返り（情報交換）や交流会を開催しました

10/20

視察 世界遺産地域におけるヒグマ管理の現場
(岩尾別川)

実習3 世界遺産地域におけるヒグマ対策・普及啓発
(知床自然センター)

岡本征史・公益財団法人知床財団 企画総務部長

実習4 市街地におけるヒグマ対策（ウトロ市街地）

新庄康平・公益財団法人知床財団 事業部 保護管理事業係主任

実習5 ヒグマに関する質疑応答（ホテル知床）

梶光一・東京農工大学名誉教授、当財団代表理事

新庄康平・公益財団法人知床財団 事業部 保護管理事業係主任

実習1

岩尾別台地の大型エゾシカ柵を見学し、知床で行われてきたエゾシカ捕獲の現状や課題を学びました。金川講師には具体的な手法、現場の苦労や工夫など、たくさんの質問にお答えいただきました。



実習2

しれとこ100平方メートル運動地内の森づくりの道（開拓小屋コース）を散策し、中西講師から森づくりの中で行われているエゾシカ対策などをお聞きしました。野生動物との共存を目指した森づくりの奥深さを感じることができました。

実習3

ヒグマと人の接近が問題となっている岩尾別川をバス車内から視察後、知床自然センターで、岡本講師からヒグマ対策に関する人への普及啓発の取り組みをお聞きしました。心理学の知見などを取り入れた工夫、教育の重要性などを学びました。



実習4

電気柵や頑丈なゴミステーションなど、ウトロ市街地のヒグマ対策について、新庄講師とともに現地を歩き、見学しました。住民の暮らしの安全を守る対策の重要性を実感することができました。

ワイルドライフマネジメント・知床ミーティング 受講生の声（アンケート結果より）

森林復元とエゾシカ管理について、カラマツを切らずに利用しながら、樹種の多様化を図っているというのが大変ユニークな発想だと思いました。

人生で初めてヒグマを見たこと

知床財団の職員の方々をはじめとする講師の皆様のリアルなお話が聞け、取り組み（植生復元やクマ対策等）を見られたこと

様々な方が関心を寄せて参加されていたこと

クマ渋滞を見たときに、一般の方々の理解を得ることの難しさを感じた。
知床では幼少期からヒグマに対する教育が行き届いていることが素晴らしいと感じた。

印象に残ったこと

他では見られないほど大型の囲いわなとその運用方法、森づくりの仕組みと工夫、市街地におけるヒグマの現状とその対策。

岩尾別の超巨大な囲いが一番印象に残っています。また、自分達は事業の結果を見ることはないだろうけど次の世代へ繋ぐという強い信念に心打たれました。

普段仕事をしていると数ヶ月先、せいぜい数年先のスケールでしか物事を考えなくなってしまうので…。

受講生について 知床ミーティング

参加者数 11人

年代

10代	1人
20代	3人
30代	2人
40代	1人
50代	3人
60代	1人

性別

男性	6人
女性	5人

お住まい

北海道内	8人
北海道外	3人

受講生の所属

行政職員（北海道、札幌市）、NPO法人職員、民間企業職員、フリーランス、主婦、学生など

受講生
募集中

オンライン講座「希少種の保護管理」を開催！

知床ネイチャーキャンパス・ワイルドライフマネジメントシリーズ



シマフクロウやオジロワシ・オオワシなど希少生物の保護管理について、第一線の研究者による全5回のオンライン講座を開催します（Zoom利用）。1週間程度の見逃し配信期間も設けますが、Zoomでのご参加を基本にしてください。今回の講座を皮切りに、今後も様々なテーマでの開催を予定しています！

日程・テーマ・講師（いずれも19:30～21:00開催）

I シマフクロウ編

- 2025年1月30日 講師・鳥居敏男さん
(元環境省自然環境局長・当財団業務執行理事)
「希少鳥類保護の法制度と事業」
- 2025年2月6日 講師・早矢仕有子さん
(北海学園大学教授)
「シマフクロウの生態」
- 2025年2月20日 講師・早矢仕有子さん
(北海学園大学教授)
「シマフクロウ保護の取り組み」

II オジロワシ・オオワシ編

- 2025年1月30日 講師・鳥居敏男さん
(元環境省自然環境局長・当財団業務執行理事)
「希少鳥類保護の法制度と事業」
- 2025年3月13日 講師・白木彩子さん
(東京農業大学准教授)
「オジロワシの生態と保護、生息地保全」
- 2025年3月20日 講師・中川元さん
(元知床博物館館長・当財団業務執行理事)
「オオワシの越冬生態と生息地保全」

参加費

全5回通し受講：5,000円（一般）4,000円（学生）
シマフクロウ編（3回）：3,000円（一般）2,000円（学生）
オジロワシ・オオワシ編（3回）：3,000円（一般）2,000円（学生）
※1回目は共通講義です。部分受講は不可ですのでご了承ください。

テキスト

『シマフクロウ 家族の物語』（北海学園大学出版会 1100円）
『レッドデータブック2014 2 鳥類』（ぎょうせい 3740円）

定員

90名（先着順、定員に達し次第締め切ります）

※講師の都合により日程が変更となる場合があります。

お申し込み

右記Googleフォームより
お申し込みください

<https://forms.gle/sGPwkHUipd9gMu5U8>



※Googleフォームでの申し込みが難しい方は、メールに、氏名、住所、電話番号、所属（大学等の場合は大学名と学部と学年、企業等の場合は名称と所属部署）、「連続講座ワイルドライフマネジメント受講希望」と明記の上、以下のアドレスまでお申し込みください。
shiretokodaigaku@gmail.com

予告

知床ネイチャーキャンパス2025

ヒグマ管理をテーマに開催します！

2025年度の知床ネイチャーキャンパスは、ヒグマ管理をテーマに開催します。オンデマンド配信講義（8月～）、ケースメソッド授業（9月）、現地実習・演習（10月1～3日）を予定。主に社会人（現職者）向けに、知床での事例や課題を学び、各地の現場で生かしていただく内容を想定しています。行政、民間、NPO、学生など、幅広い皆様のご参加をお待ちしています。

※詳細決定、募集を開始し次第、当財団HPやSNSなどでもお伝えします

知床ネイチャーキャンパス2025 ヒグマ管理（仮）

オンデマンド配信講義：2025年8月～10月

ケースメソッド授業：2025年9月（オンライン開催）

現地実習・演習：2025年10月1日（水）～3日（金）

※スケジュールは変更となる可能性があります



2024年10月に開催した知床ネイチャーキャンパス2024 ワイルドライフマネジメント・知床ミーティングの様子

斜里町ウトロの2つのホテルで

「知床トーク2024」を開催しました！



2024年8月8日、ホテル知床ロビー

2024年8月8日と13日夜、斜里町ウトロの2つのホテルで、知床トーク「知床国立公園の歩んだ60年＝その歴史と現在＝」を開催しました。宿泊客や地元住民の皆さんなど、合計約100名の方にご参加いただきました。

第1弾、8日のスピーカーは中川元・当財団業務執行理事。高度経済成長期、東京オリンピックのあった年に、知床は国立公園に指定されました。それから知床旅情のヒットによる観光ブームやしれとこ100平方メートル運動のスタート、知床横断道路の開通、国有林伐採問題、世界自然遺産登録・・etc。貴重な写真とともにさまざまトピックを駆け足で紹介し、中川理事が関わってきた知床の出来事を振り返りました。これらの歴史を経て、今の知床の姿があることを実感できたと思います。



2024年8月13日、
北こぶし知床 ホテル&リゾートロビー

第2弾、13日は寺山元さん（インバウンド向けガイド）による「歩く旅から見える知床の価値 3つの国立公園とまちを繋ぐロングトレイル」を開催しました。狭いエリアに豊かな自然が凝縮している知床。それが魅力であり、様々な課題も生じていることをご紹介いただいた上で、10月開通の「北海道東トレイル」についてお話しいただきました。

東北の「みちのく潮風トレイル」やスペインの巡礼の道（カミーノ・デ・サンティアゴ）を歩き、まちで人々と交流しながら、自分の身体や内面と向き合う旅をしてきた寺山さん。知床国立公園も含めたロングトレイルの魅力とともに、匂いや風をダイレクトに感じる歩く旅の豊かさを改めて考えるトークとなりました。

知床ネイチャーキャンパスに関する記事が掲載されました！

9月に開催した「知床ネイチャーキャンパス2024・自然にかかわるWORK&PEOPLE」について、10月24日の朝日新聞夕刊に紹介記事（クマ対策の最前線を追う4）が掲載されました。ウトロ市街地のヒグマ対策などを学んだ実習を取材いただき、梶光一・代表理事や受講生の方々のコメントも掲載されています。朝日新聞デジタルからもご覧いただけます。

<https://www.asahi.com/articles/ASSBR2Q0YSBRUJUB00NM.html>

11月20日発売の雑誌「Wedge」（特集・令和のクマ騒動が人間に問うていること）でも、梶代表理事や横山真弓・専門委員の寄稿のほか、9月のネイチャーキャンパスを取材いただいた中でバス車内から目にしたヒグマの姿や、市街地のヒグマ対策などが掲載されています。Wedge Onlineからもご覧いただけます。

<https://wedge.ismedia.jp/ud/special/674961fdb5762246a0000000>



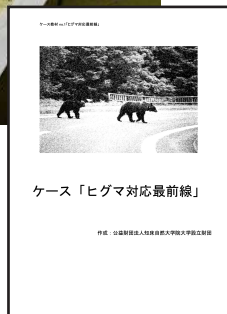
雑誌「Wedge」12月号

ケース教材を活用しています!

頻発する野生動物問題への入り口に



ケース教材「ヒグマ対応最前線」は、知床で野生動物対策を担う架空の会社「知床ウッズ」の4年目職員・高松大地が主人公の物語です!



当財団は2023年、知床のヒグマやエゾシカ管理を学ぶための物語風教材「ケース教材」を作成し、知床ネイチャーキャンパスで活用してきました。当時研究員として作成に携わり、現在金沢星稜大学の講師として教材を活用している船木大資さんに、ケースメソッド教育の内容や効果について、寄稿いただきました。

＊ケースメソッド教育とは、物語風の教材「ケース教材」を使用すること、教員が知識を伝えるのではなく、教材を読んだ学生のディスカッションを中心に進められることなどの特徴を持った教育方法。実践的な能力を身に着けるのに有効なことから、経営学等の分野で盛んに用いられています。

ケース教材「ヒグマ対応最前線」は、ケースメソッド教育を知床ネイチャーキャンパスへと導入するために作成した教材です。この「ヒグマ対応最前線」は、現在私がおはたらいている石川県の金沢星稜大学でも活用させてもらっています。

金沢星稜大学では、1年生を対象とした「教養ゼミナール」という授業があります。今後の大学生活で必要とされる様々なスキルを身につけてもらうことをねらいとした必修授業です。私の授業では、「意見の異なるメンバーと協働して創造的な提案をつくりあげる能力」に特に焦点を当てており、この能力を向上させるための教材として「ヒグマ対応最前線」を用いています。

授業は全7回で、前半は知床でのヒグマをめぐる課題についての全体像を考えること、後半は課題を解決するための具体的な提案を作成することに取り組んでもらっています。現地実習こそ含まれていませんが、2023年に実施した「ステップアッププログラム」を圧縮したような構成です。

授業を受講する1年生たちは、野生動物管理に関心があるから受講しているわけではありません。知床がどこにあるのか、よくわかっていない学生も少なくありません。当初この教材を授業へと導入するのには若干の躊躇がありました。そんなことは杞憂だったようで、みなさん積極的に取り組んでくれています。最終発表では、これまでの

ネイチャーキャンパスでも聞いたことがなかったような創造的アイデアを披露するチームもありますし、対策にかかる費用を綿密に計算するなどして、実社会への応用を真剣に考えてくるチームもあります。ちょっと前までは知床がどこにあるかもわかっていなかったのに、短時間でよくここまでつくってくるなあ、と毎回驚きながら授業をしています。

知床ネイチャーキャンパスと違い、私の授業を受けた学生が、実際に野生動物管理の専門家への道を選ぶことはほとんどないと思います。しかし、私の授業で焦点を当てている「協働での提案作成能力」というのはこの世界でも必要な能力です。また昨今の野生動物問題の頻発状況を見ても、ますます市民・住民の、すなわち非専門家の野生動物問題に対するリテラシーが必要とされる時代になってきています。物語風で親しみやすいケース教材を用いたケースメソッド授業は、これからの時代を生き抜くスキルを身につけるうえでも、また野生動物問題への入り口としても、とても有効なのではないか、と感じています。

ふなき だいすけ
船木 大資

金沢星稜大学経済学部地域システム学科 講師。
2021~23年度の3年間、当財団研究員として、知床ネイチャーキャンパスの企画運営やケース教材作成に携わる。専門は自然遺産及び遺産地域の歴史・記憶。

活動支援のための 賛助会員・寄附金のお願い

知床ネイチャーキャンパスをはじめとする当財団の事業は、皆様からの浄財によって行われています。一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

当財団は内閣総理大臣の認定を受けた公益財団法人であり、当財団への寄附金・賛助会費は、特定公益増進法人に対する寄附金として税法上の優遇措置が適用されます。

法人の皆様には損金算入限度額の優遇措置が、個人の方には所得税の税額控除（または寄附金控除）の対象となります。また遺贈も承っております。

詳しくはホームページ、または当財団事務局までお問い合わせください。

■ 賛助会員の年会費 ※年度ごとの納入となります。

個人会員	5,000円
団体会員	10,000円
法人会員	20,000円
法人特別会員	100,000円

■ 寄附金について

寄附金も随時募集しています。賛助会員加入同様にお申し込みください。

■ 主な入金口座について

ゆうちょ銀行 記号19940（普）10138691
（※他の金融機関から 店名九九八 番号1013869）
北洋銀行斜里支店 店番452（普）3119440

知床自然大学院大学設立財団ホームページ
賛助会員・寄附金募集ページ
<http://shiretoko-u.jp/supporter/>



公益財団法人

知床自然大学院大学設立財団

〒099-4117

北海道斜里郡斜里町青葉町28番地10

TEL：0152-26-7770 FAX：0152-26-7773

E-mail：sizendaigaku@wine.plala.or.jp

WEB：https://shiretoko-u.jp



Facebook @shiretoko.u
X @sizendaigaku
Instagram @shiretoko_u

設立財団ニュースレター（会報誌） No.32

発行日 2024年12月10日

発行 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団